



CHAPTER 3

接続オプションの設定

ゼロクライアントのダイアログボックスを使用して、次の接続オプションを設定できます（ユーザの特権レベルによって、一部のオプションは使用できない場合があります）。

- 「[Network Setup](#)」 (P.3-2)
- 「[Remote Connections](#)」 (P.3-7)
- 「[Central Configuration](#)」 (P.3-10)
- 「[ICA および RDP 接続の詳細](#)」 (P.3-11)



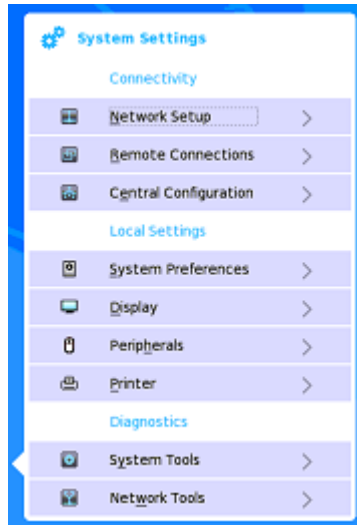
ヒント

接続オプションの設定にゼロクライアントのダイアログボックスを使用することは推奨されませんが、中央のデフォルト設定を一時的に上書きするときや、中央設定をセットアップするオプションがないとき（比較的小規模な環境の場合）は使用できます。通常は、中央設定を使用して、更新と指定したデフォルト設定を WTOS 環境内のすべてのゼロクライアントに自動的にプッシュできるようにすることを推奨します（付録 A 「[中央設定：更新と設定の自動化](#)」を参照）。

接続オプションにアクセスするには、次の手順に従います。

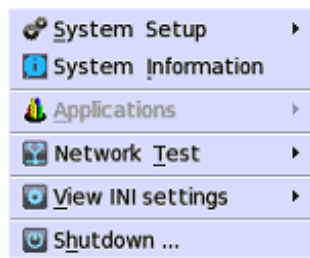
- **Cisco VXC デスクトップ** : Cisco VXC ツールバーにある [System Settings] アイコンをクリックします（管理者の場合、[Login] ダイアログボックスの [Admin Mode] ボタンをクリックすることもできます）。

図 3-1 System Settings



- クラシック デスクトップ : [User Name] ([User Name] はログインしているユーザの名前で、タスクバーの左下部に表示されています) をクリックして、[System Setup] を選択します。

図 3-2 [User Name] メニュー



Network Setup

[Network Setup] ダイアログ ボックスを使用して、ゼロ クライアント ネットワーク設定を指定できます。



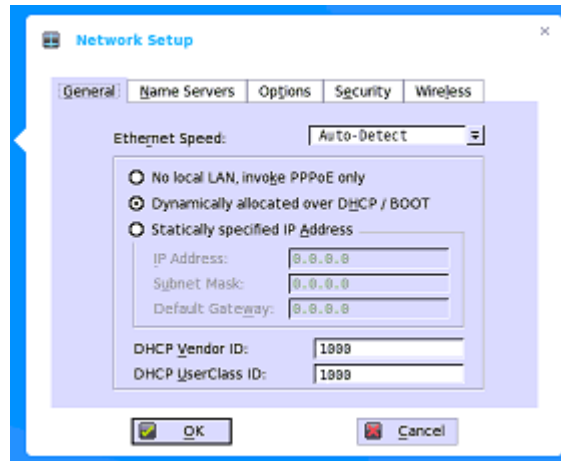
ヒント

動作環境によっては、ネットワーク管理者によってこのダイアログ ボックスへのアクセスが無効に設定されている場合があります。特に、特権が低いか、特権を持っていないユーザは (PPPoE アクセスを使用している場合はログオンするまで) このボックスにアクセスできません。

[General] タブ

図 3-3 に、[General] タブを示します。

図 3-3 [Network Servers] : [General]



次のガイドラインに従って、[General] タブを設定します。

- [Ethernet Speed] : 通常はデフォルト ([Auto-Detect]) を選択しますが、ネットワーク機器が自動ネゴシエーションをサポートしていない場合は、別のものを選択できます。選択項目には、[Auto-Detect]、[10 Mb Half-Duplex]、[10 Mb Full-Duplex]、[100 Mb Half-Duplex]、[100 Mb Full-Duplex] があります。



ヒント [10 Mb Full-Duplex] オプションはデバイスでローカルに選択できますが、このモードでは [Auto-Detect] を使用したネゴシエーションが必要になることがあります。

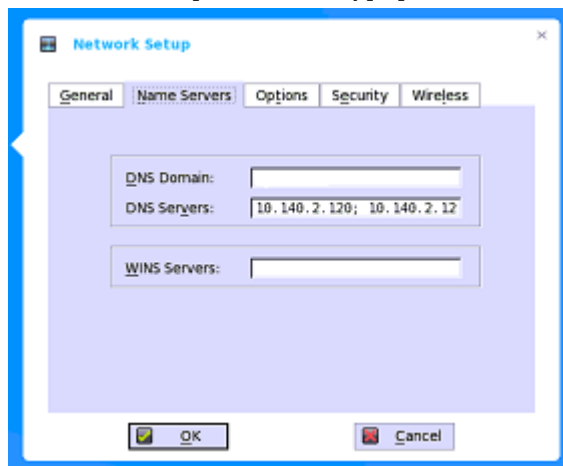
- [No local LAN, invoke PPPoE only] : ゼロクライアントが PPPoE 接続を介してネットワークにアクセスする場合は、このオプションを選択します。
- [Dynamically allocated over DHCP/BOOTP] : このオプションを選択すると、ゼロクライアントは自動的に DHCP サーバから情報を受け取れるようになります。ネットワーク管理者は、情報が提供されるように (DHCP オプションを使用して) DHCP サーバを設定する必要があります。DHCP サーバから提供された値によって、[Options] タブでローカルに入力した値が置換されますが、DHCP サーバが代替りの値を提供できない場合は、ローカルに入力した値が使用されます。
- [Statically specified IP Address] : 手動で [IP Address]、[Subnet Mask]、および [Default Gateway] の値を入力する場合は、このオプションを選択します。
 - [IP Address] : サーバ環境で有効なネットワーク アドレスにする必要があります。ネットワーク管理者がこの情報を提供する必要があります。
 - [Subnet Mask] : サブネット マスクの値を入力します。サブネット マスクは、他のサブネットにあるマシンにアクセスできるようにために使用されます。サブネット マスクを使用すると、他の IP アドレスのロケーションが同一サブネットなのか、別のサブネットなのかを区別できます。ロケーションが別のサブネットである場合、そのアドレスに送信されるメッセージは、ローカル設定または DHCP のどちらを使用して指定されたかにかかわらず、デフォルトのゲートウェイを使用して送信される必要があります。ネットワーク管理者がこの値を提供する必要があります。

- [Default Gateway] : ゲートウェイの使用はオプションです。ゲートウェイを使用して、複数のネットワークが相互に接続されます (ネットワーク間で IP パッケージをルーティングまたは配信します)。インターネットまたは複数のサブネットを持つイントラネットのアクセスには、デフォルト ゲートウェイが使用されます。ゲートウェイを指定しなかった場合、ゼロクライアントで同じサブネット上の他のシステムしかアドレス指定できません。ゼロクライアントをインターネットに接続するルータのアドレスを入力します。このアドレスは、IP アドレスとサブネット マスクによって定義され、ゼロクライアントと同じサブネットに存在する必要があります。DHCP が使用されている場合は、DHCP を使用してアドレスを指定できます。
- [DHCP Vendor ID] : [Dynamically allocated over DHCP/BOOTP] オプションを選択した場合に、[DHCP Vendor ID] が表示されます。
- [DHCP UserClass ID] : [Dynamically allocated over DHCP/BOOTP] オプションを選択した場合に、[DHCP UserClass ID] が表示されます。

[Name Servers] タブ

図 3-4 に、[Name Servers] タブを示します。

図 3-4 [Network Setup] : [Name Servers]



次のガイドラインに従って、[Name Servers] タブを設定します。

- [DNS Domain and DNS Servers] : DNS の使用はオプションです。DNS を使用すると、IP アドレスではなくホスト名によってリモートシステムを指定できます。接続用に (名前ではなく) 特定の IP アドレスを入力すると、DNS ではなく、そのアドレスが接続に使用されます。使用可能な DNS サーバの DNS ドメインとネットワーク アドレスを入力します。DNS ドメイン エントリの機能によって、名前解決に使用されるデフォルトのサフィックスが指定されます。これらの 2 つのボックスの値は DHCP サーバから指定できます。DHCP サーバでこれらの値を指定すると、ローカルで設定されたすべての値はそれらの値で置き換えられます。DHCP サーバでこれらの値を指定しなかった場合は、ローカルで設定された値が使用されます。



ヒント 2 つの DNS サーバアドレスを、セミコロン、コンマ、またはスペースで区切って入力できます。最初のアドレスはプライマリ DNS サーバ用、2 番目のアドレスはバックアップ DNS サーバ用です。

- [WINS Servers] : WINS の使用はオプションです。使用可能な WINS ネーム サーバのネットワークアドレスを入力します。WINS を使用すると、IP アドレスではなくホスト名によってリモートシステムを指定できます。接続用に（名前ではなく）特定の IP アドレスを入力すると、WINS ではなく、そのアドレスが接続に使用されます。DHCP を使用している場合は、これらのエントリを DHCP を通じて提供できます。DNS と WINS は、名前解決という本質的に同じ機能を提供します。DNS と WINS の両方を使用できる場合、ゼロクライアントは名前の解決に、まず DNS を使用してから、次に WINS を使用しようとします。



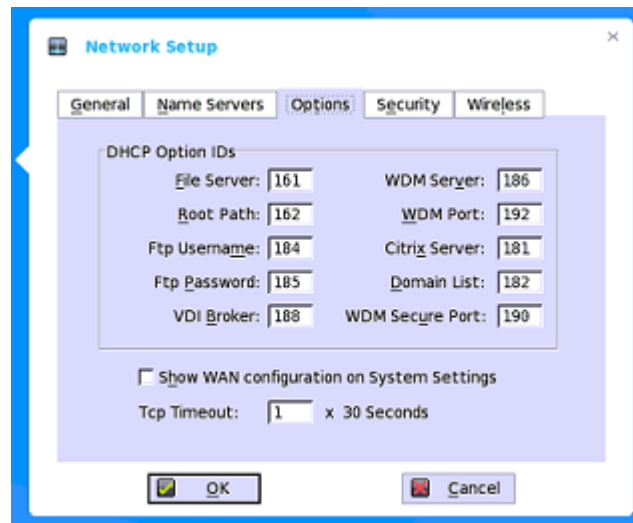
ヒント

2 つの WINS サーバアドレス（プライマリとセカンダリ）を、セミコロン、コンマ、またはスペースで区切って入力できます。

[Options] タブ

図 3-5 に、[Options] タブを示します。

図 3-5 [Network Setup] : [Options]



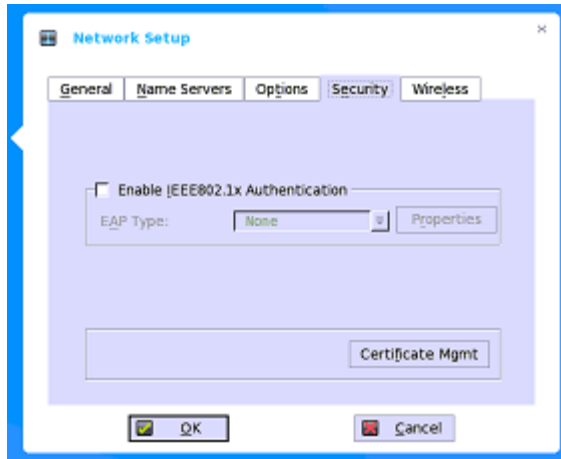
次のガイドラインに従って、[Options] タブを設定します。

- [DHCP Option IDs] : サポートされている DHCP オプションを入力します（各値は一度しか使用できず、128 ~ 254 の値にする必要があります）。DHCP オプションの詳細については、「[DHCP \(DHCP オプション\) の設定](#)」(P.A-10) を参照してください。
- [Show WAN configuration on System Settings] : [System Settings] サブメニューに WAN 設定を表示できるようにします。
- [Tcp Timeout] : 指定する TCP 接続のタイムアウト値を 30 で除算した秒数を入力します。1 ~ 255 の値にする必要があります、接続タイムアウト値は、1 × 30 秒から 255 × 30 秒になります。

[Security] タブ

図 3-6 に、[Security] タブを示します。

図 3-6 [Network Setup] : [Security]



次のガイドラインに従って、[Security] タブを設定します。

- [Enable IEEE 802.1x authentication] : このチェック ボックスを選択すると、この認証が有効になり、オプションの [EAP Type] リストがアクティブ化されます。
- [EAP Type] : [Enable IEEE 802.1x authentication] チェック ボックスを有効にした場合は、希望する [EAP Type] オプションを選択してください ([TLS]、[LEAP]、または [PEAP])。
 - [TLS] : [TLS] オプションを選択した場合は、[Properties] をクリックし、[Authentication Properties] ダイアログボックスを開いて設定します ([Browse] を使用して、必要なクライアント証明書ファイルと秘密キー ファイルを選択できます)。CA 証明書をゼロ クライアントにインストールする必要があることに注意してください。
 - [LEAP] : [LEAP] オプションを選択する場合は、[Properties] をクリックして [Authentication Properties] ダイアログ ボックスを開いて設定します (認証に正しいユーザ名とパスワードが使用されていることを確認してください)。ユーザ名またはパスワードに使用できるのは、最大 64 文字です。
 - [PEAP] : [PEAP] オプションを選択する場合は、[Properties] をクリックして [Authentication Properties] ダイアログ ボックスを開いて設定します (EAP_GTC または EAP_MSCHAPv2 が選択されていることを確認し、必要に応じて、認証に正しい [Username]、[Password]、および [Domain] を使用します)。EAP-GTC を指定するにはユーザ名のみを入力します。パスワードまたは PIN は認証時に要求されます。EAP-MSCHAPv2 を設定するには、ユーザ名、パスワード、およびドメインを入力します (ユーザ名ボックスでは domain¥username がサポートされますが、ドメイン ボックスは空白のままにしておく必要があります)。CA 証明書がゼロ クライアントにインストールされている必要があります (サーバ証明書は強制的に検証されます)。
- [Certificate Management] : [Certificates Browser] が開きます。ここで、証明書をインポートするための [Import From] オプションを選択できます ([USB Storage] または [File Server])。
 - [USB Storage] : [USB Storage] オプションを選択する場合は、[Import] をクリックして [Import] ダイアログ ボックスを開いて使用し、使用する証明書を選択します。インポートパスには最大 128 文字まで使用できます。証明書名には最大 64 文字まで使用できます。

- [File Server] : [File Server] オプションを使用する場合は、[Import] をクリックして [Import] ダイアログ ボックスを開いて使用し、[File Servers] ボックスで使用する証明書への詳細パスを入力します (必要に応じて、正しい [Username] と [Password] を使用します)。証明書の絶対パスを入力する必要があります。たとえば、10.151.121.100/wnos/cacerts/mycertificate.cer のように入力します。インポート パスには最大 128 文字まで使用できます。証明書名には最大 64 文字まで使用できます。

Remote Connections

[Remote Connections] ダイアログ ボックスを使用して、ゼロクライアントのリモート接続 (ICA、RDP、Citrix XenDesktop、およびその他のブローカ サーバ接続)、視覚的オプション、および一般的な接続設定を指定できます。



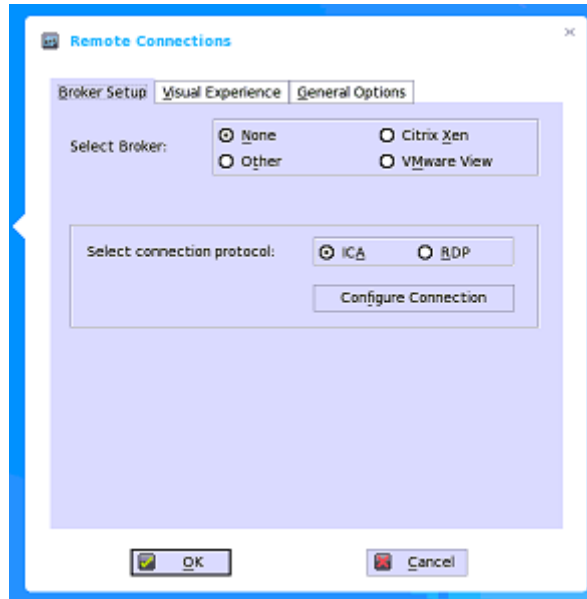
ヒント

[Classic Desktop] オプションでは、[Remote Connections] ダイアログ ボックスを使用して、デフォルトの ICA および RDP 接続を作成して使用できます。複数の ICA および RDP 接続 (デフォルトの接続以外の接続) を作成する場合は、Connect Manager を使用してください ([Connect Manager] (P.2-10) を参照)。

[Broker Setup] タブ

図 3-7 に、[Broker Setup] を示します。

図 3-7 [Remote Connections] : [Broker Setup]



次のガイドラインに従って、[Broker Setup] タブを設定します。



ヒント

wnos.ini ファイルが使用されている場合は、そのファイルでロケーションを指定できます。DHCP が使用されている場合は、DHCP を使用してロケーションを指定できます。エントリを作成した後、ゼロクライアントをリブートして、変更を有効にしてください。

- [Citrix Xen Connection] (推奨オプション) : [Citrix Xen] を選択して、サーバの IP アドレスを [Broker Server] に入力し、オプションを選択してから、[OK] をクリックします。
次のガイドラインに従って、Citrix Xen Broker Server を設定します。
 - サーバの IP アドレスまたはホスト名を [Broker Server] ボックスに入力します。
 - [Enable automatic reconnection at logon] および [Enable automatic reconnection from button menu] チェック ボックスとオプションを使用して、自動再接続の接続をさらに詳細に設定します。
 - 上記の情報を入力した後、Cisco VXC クライアントがブローカ サーバを検出してログインできるように、クライアントをリセットする必要があります。Cisco VXC クライアントをこのように設定した場合、通常、システム管理者はこれ以上の設定を行う必要はありません。他のすべての設定には、必要な設定がデフォルトで行われています。
- [ICA Connection] : [None] を選択し、[ICA] を選択して、[Configure Connection] をクリックし、ウィザードの指示に従います (「ICA 接続の設定」(P.3-12) を参照)。
- [RDP Connection] : [None] を選択し、[RDP] を選択して、[Configure Connection] をクリックし、ウィザードの指示に従います (「RDP 接続の設定」(P.3-17) を参照)。
- [Direct Connection] : [Other] を選択して、ブローカ サーバの IP アドレスを [Broker Server] ボックスに入力してから、[OK] をクリックします。
- [VMware View Connection] : [VMware View] を選択して、サーバの IP アドレスを [Broker Server] ボックスに入力し、[OK] をクリックします。



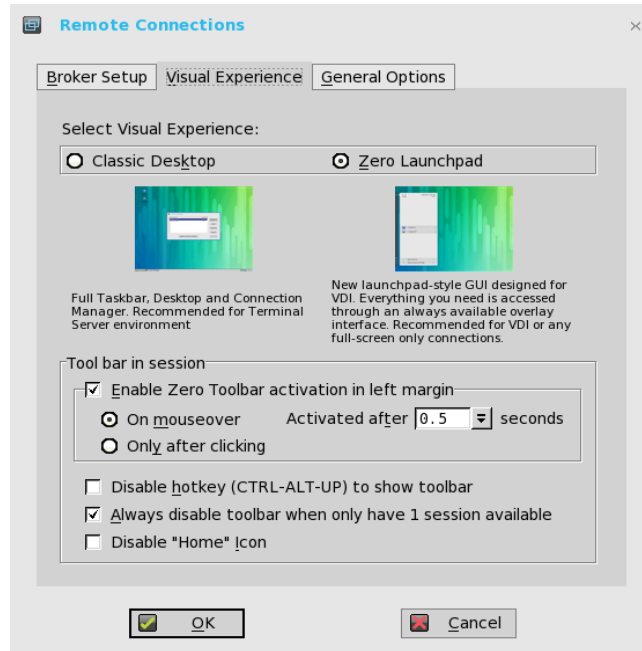
ヒント

ブローカは HTTP と HTTPS の両方をサポートしていますが、ブローカ サーバのサポート状況によって異なります。HTTP または HTTPS がブローカ サーバで指定されていない場合は、HTTP がデフォルトで使用されます。HTTPS が指定されている場合、クライアント側は対応するルート証明書をローカルにインストールする必要があります。対応するルート証明書をローカルにインストールする方法の詳細については、付録 D 「HTTPS/SSL Web サーバの設定」を参照してください。

[Visual Experience] タブ

図 3-8 に、[Visual Experience] タブを示します。

図 3-8 [Remote Connections] : [Visual Experience]



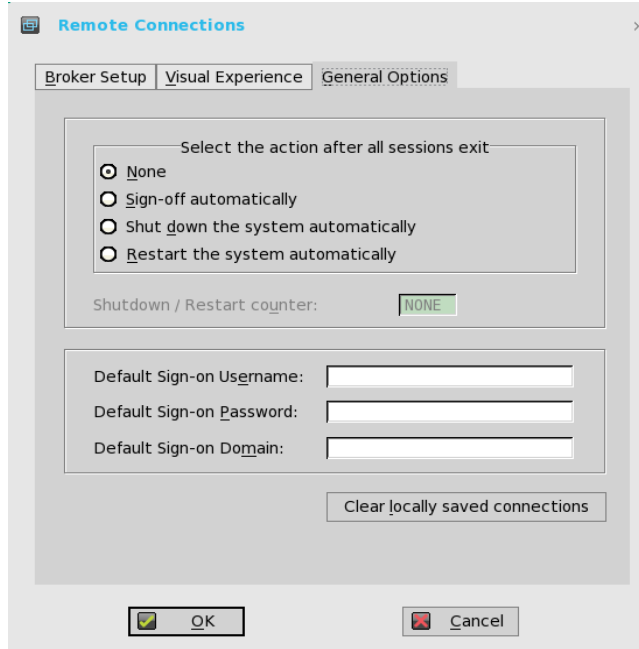
次のガイドラインに従って、[Visual Experience] タブを設定します。

- [Classic Desktop] : WTOS ユーザが使い慣れているフル タスクバー、デスクトップ、および Connect Manager が表示されます。このオプションは、ターミナル サーバ環境に推奨されます。
- [Zero Launchpad] : VDI で使用できるように設計されたランチパッドスタイルの Cisco VXC デスクトップ GUI が表示されます。機能には、常に使用可能なインターフェイスからアクセスします。このオプションは、VDI やフルスクリーンのための接続に推奨されます。
- ツールバー、ホットキー、および接続アイコンのオプションも設定に使用できます。

[General Options] タブ

図 3-9 に、[General Options] タブを示します。

図 3-9 [Remote Connections] : [General Options]

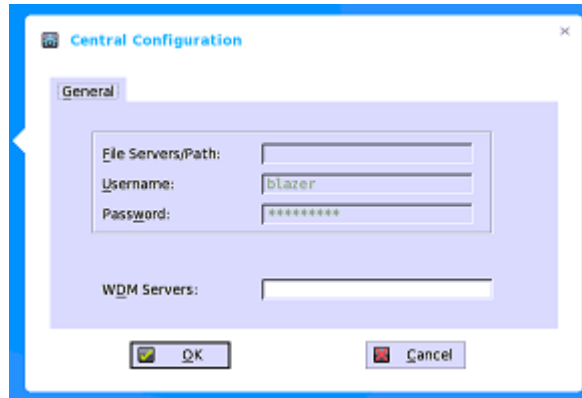


[General Options] タブ オプションを使用して、開いているすべてのデスクトップを終了した後のアクションを選択し（デフォルトで、ゼロクライアントは自動的に [Login] ダイアログボックスに戻り、別のユーザが使用できるようになります）、デフォルトのログオン ユーザ名とドメインを設定して、ローカルに保存された接続をクリアします。

Central Configuration

[Central Configuration] ダイアログボックスを使用して、ファイルサーバやオプションの VXC Manager サーバ設定など、ゼロクライアントの中央接続設定を指定できます。

図 3-10 Central Configuration



次のガイドラインに従ってください。

- [File Servers/Path]、[Username]、および [Password] : システム ソフトウェアと更新のイメージを提供するファイル サーバの IP アドレスまたはホスト名です。DHCP を使用している場合は、アドレスを DHCP を通じて提供できます。次のガイドラインに従ってください。
 - [File Servers/Path] : 最大 128 文字まで使用できます。このデータによって、サーバにアクセスしたときに使用されるパスの一部が指定されます。データの全長が長さ制限以内であれば、複数のファイル サーバ/パスを指定できます。
 - [Username] : ファイル サーバへのログインに使用します。最大で 15 文字まで使用できます。
 - [Password] : ファイル サーバへのログインに使用します。最大で 15 文字まで使用できます。
- [WDM Servers] : Cisco VXC Manager が使用されている場合の IP アドレスまたはホスト名が一覧表示されます。ユーザ プロファイルが使用されている場合、ユーザ プロファイルを使用してロケーションを指定できます。DHCP が使用されている場合は、DHCP を使用してロケーションを指定できます。

ICA および RDP 接続の詳細

ICA および RDP 接続を設定するときは、次の情報を参考にしてください（この情報は、ゼロ クライアントにロック ダウンされた特権レベルがないことを前提にしています）。

- 特権の高いユーザ : [Connection Settings] ダイアログ ボックスによって提供される追加機能により、接続定義をユーザ プロファイル ファイルに入力する前に、(ネットワーク管理者による) テストを行うことができます。
- 特権の低いユーザ : 選択された接続の設定を表示できますが、編集することはできません。また、新しい接続を定義することはできません。接続定義はネットワーク管理者によって制御され、リモート サーバにあるユーザ プロファイルからゼロ クライアントによってアクセスされます。
- スタンドアロン ユーザ : リモート ユーザ プロファイルから接続定義にアクセスすることはできないため、スタンドアロン ユーザは Connect Manager を使用できるようになっています。ユーザ プロファイルを FTP サーバで入手できても、DHCP を使用できないか、ファイル サーバの IP アドレスを提供するように設定されていないために、ユーザ プロファイルにアクセスできない場合は、[Network Setup] ダイアログ ボックスを使用して、ファイル サーバ IP の場所を手動で入力できます。

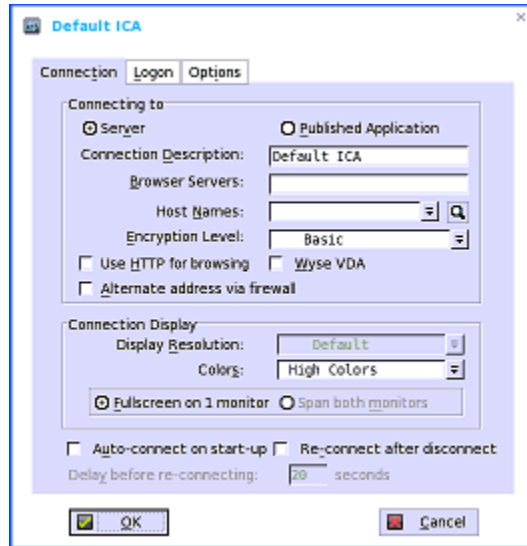
ICA 接続の設定

ここでは、ICA 接続の設定について説明します。

[Connection] タブ

図 3-11 に、[Connection] タブを示します。

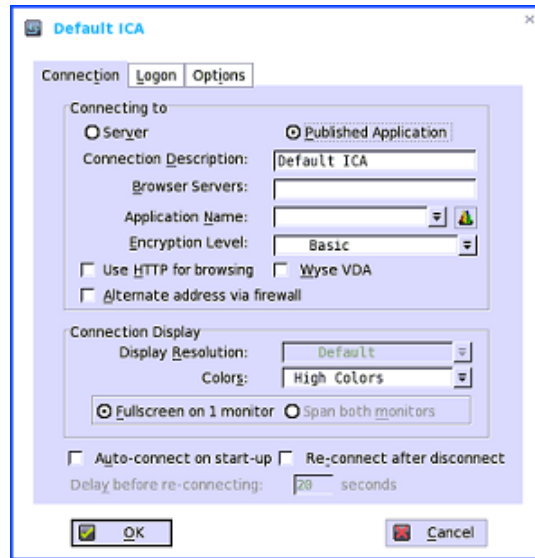
図 3-11 [Default ICA] : [Connection] ([Server] オプション)



[Server] オプションを選択すると、[Host Names] ボックスが表示されます。

[Published Application] オプションを選択すると、[Host Names] ボックスが [Application Name] ボックスに変わります。

図 3-12 [Default ICA] : [Connection] ([Published Application] オプション)



次のガイドラインに従って、[Connection] タブを設定します。

- [Server or Published Application] : 設定を適用する接続タイプを選択します。
- [Connection Description] : 接続リストに表示されるわかりやすい名前を入力します (最大 38 文字)。
- [Browser Servers IP] : マスター ブラウザ リストを含むか、リストを含む別のサーバを参照できる ICA サーバの IP アドレスまたは DNS 登録名の (コンマまたはセミコロンを使用した) 区切りリストを入力します。マスター ブラウザ のリストはいずれかの ICA サーバの参照プログラムによって (サーバ間のネゴシエーションを選択することで) 自動的に生成されます。このリストを使用して、[Server Name] または [IP] ボックスに表示される情報が提供されます。ゼロクライアントと同じネットワーク セグメントにある ICA サーバにリストがある場合、エントリーは必要ありません。接続先がサーバであるか、サーバ名あるいは IP にサーバの IP アドレスが含まれている場合、エントリーは必要ありません。
- [Host Name] または [Application Name] (タイトルは、選択した [Server] または [Published Application] のオプションによって異なります) : サーバ ホスト名または IP アドレスの (セミコロンまたはコンマによる) 区切りリストを入力できます。または、ICA マスター ブラウザ から取得した ICA サーバまたは公開済みアプリケーション (選択した [Server] または [Published Application] オプションによって異なります) のリストから選択できます (ボックスの横にある [Browse] ボタンを使用して選択することもできます)。サーバの区切りリストを入力した場合、前のサーバへの接続に失敗すると、ゼロクライアントはリストに記載されている次のサーバへの接続を試行します。リストを使用した場合に選択した接続に失敗すると、ゼロクライアントはリストに記載されている次のものへの接続を試行します。



ヒント [Host Name] は、ICA マスター ブラウザ、DNS、または WINS の 3 つのメカニズムのいずれかを使用して解決できます。マスター ブラウザ は公開されたアプリケーションを解決できる唯一のメカニズムです (DNS にそのアプリケーションを手動で入力した場合を除く)。DNS はネットワーク制御パネルのデフォルト ドメイン名を使用して FQDN を構成しようとしていますが、デフォルトを使用しない名前解決も試行します。

- [Encryption Level] : ゼロ クライアントと ICA サーバ間の通信のセキュリティ レベルを選択できます。[Basic] (デフォルト オプション) は最も低いレベルのセキュリティです。[Basic] では、高いレベルの暗号化を行う場合よりも必要な処理量が少なくなるため、デバイスと ICA サーバ間の通信速度を上げることができます。

**注意**

この暗号化の選択内容は、ゼロ クライアントと ICA サーバ間の通信のセキュリティにのみ適用されます。これは、ICA サーバ上の個々のアプリケーションのセキュリティ設定とは独立しています。たとえば、大部分の Web 金融取引ではゼロ クライアントで 128 ビットの暗号化を使用する必要があります。ただし、ゼロ クライアントの暗号化も 128 ビットに設定されていなければ、取引情報が低いレベルのセキュリティに公開される可能性があります。

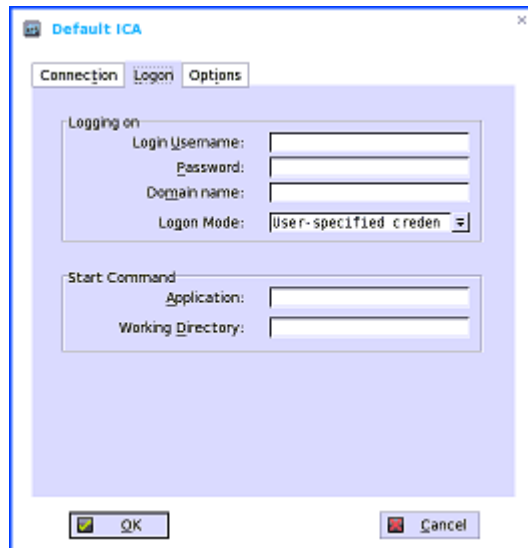
- [Use HTTP for browsing] : これを使用すると、デフォルトでゼロ クライアントはブラウザに http を使用します。
- [Alternate address via firewall] : これを選択すると、ゼロ クライアントは ICA マスター ブラウザから返された代替 IP アドレスを使用して、ファイアウォールを通過します。接続がアクティブ化されると、Windows ログオンに使用されます。
- [VDA] : 選択すると、ゼロ クライアントは Virtual Desktop Accelerator (VDA) ソフトウェアを使用して、サーバとクライアント間で大きなラウンドトリップ遅延のあるリモート デスクトップ セッションで、「高速な」ユーザ エクスペリエンスを提供します。
- [Display Resolution] : この接続の表示解像度を選択します ([Published Application] オプションを選択すると、[Connection Display] によって [Seamless Display Resolution] オプションを選択できるようになります。
 - Default
 - 640 × 480
 - 800 × 600
 - 1024 × 768
 - 1152 × 864
 - 1280 × 720
 - 1280 × 768
 - 1280 × 1024
 - 1360 × 768
 - 1366 × 768
 - 1368 × 768
 - 1440 × 900
 - 1400 × 1050
 - 1600 × 900
 - 1600 × 1200
 - 1680 × 1050
 - 1920 × 1080
 - 1920 × 1200

- [Colors] : ICA セッションのカラー深度を選択します。[High Colors] (16 ビット) または [True Colors] が選択されたときに、ICA サーバがこのカラー深度をサポートしていない場合、ゼロクライアントはカラー深度をより低い値に再ネゴシエーションします (たとえば、256 色 (8 ビット))。
- [Window mode] および [Full screen mode] : アプリケーションの初期表示をウィンドウ画面にするか、全画面にするかを選択します。Ctrl-Alt を押した状態で上矢印を使用すると、表示モードを切り替えることができます。
- [Auto-connect on start-up] : これを選択すると、起動時にセッションを自動接続します。
- [Re-connect after disconnect] : これを選択すると、オペレータ以外によって開始された切断の後に、ゼロクライアントはセッションに自動的に再接続します。選択した場合、待機間隔は [Delay before re-connecting] ボックスに設定された値 (1 ~ 3600 までの秒数を入力) か、ユーザ プロファイルで yes にした場合の値 (20 秒) または指定した秒数になります。この接続の INI ファイル記述がないか、スタンドアロンユーザの場合、あるいは単に省略された場合のデフォルトは 20 秒です。

[Logon] タブ

図 3-13 に、[Logon] タブを示します。

図 3-13 [Default ICA] : [Logon]



次のガイドラインに従って、[Logon] タブを設定します。

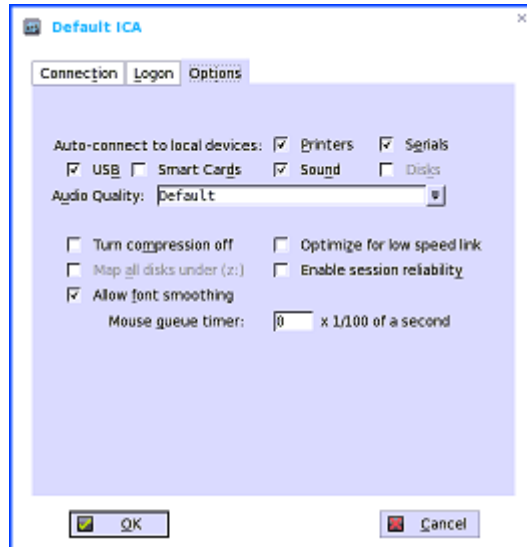
- [Logging on area] : [Login Username]、[Password]、[Domain name]、および [Logon Mode] を入力します ([Login Username]、[Password]、および [Domain name] ボックスにデータが入力されていない場合は、接続されたときに ICA サーバのログイン画面に手動で情報を入力できます)。
 - [Login Username] : 最大 31 文字です。
 - [Password] : 最大 19 文字です。
 - [Domain Name] : 最大 31 文字です。
 - [Logon Mode] : ユーザ指定のクレデンシャル、[Smart Card]、または [Local User] を選択します。
- [Start Command] 領域 : ([Server Connection] オプションのみ : [Published Application] オプションの場合、この領域は無効 (グレイアウト) になります)。

- [Application] (最大 127 文字) および [Working Directory] (最大 63 文字) : 接続されるとサーバで自動的に開始するように関連付けられた作業ディレクトリを含む、初期化用の文字列と引数を入力します。

[Options] タブ

図 3-14 に、[Options] タブを示します。

図 3-14 [Default ICA] : [Options]



次のガイドラインに従って、[Options] タブを設定します。

- [Auto-connect to local devices] : ゼロ クライアントを自動的にデバイスに接続するためのオプション ([Printers]、[Serials]、[USB]、[Smart Cards]、[Sound]、および [Disks]) を選択します (ICA セッションは自動的にシリアル ポートを通じてデバイスに接続しません)。
- [Turn compression off] : 選択すると、圧縮がオフになります (高速接続向け)。
- [Optimize for low speed link] : 選択すると、低速接続用に最適化されます。たとえば、オーディオ品質を下げたり、プロトコルで指定したキャッシュ サイズを減らしたりします。WAN リンクにスパニングしている接続や、ダイヤルアップ回線を使用している接続向けです。
- [Map all disks under (z:)] : 選択すると、Z ドライブの下にすべてのディスクがマップされます。
- [Enable session reliability] : これを有効にすると、セッションの信頼性によって、ユーザがサーバへの接続を一時的に失っても、接続を再取得したときにもう一度認証しなくて済むように設定されます。X 秒後のユーザ接続タイムアウトは実行されず、セッションはサーバで有効なままになり、クライアントが接続を再取得するとすぐに使用可能になります。
- [Allow font smoothing] : これを選択すると、フォントスムージング (滑らかな文字) が有効になります。
- [Mouse queue timer] : ICA または RDP セッションでのマウス イベントのデフォルト キュー タイマーを指定します (1/100 秒単位)。これを使用して、ネットワークの帯域幅を調整できます。

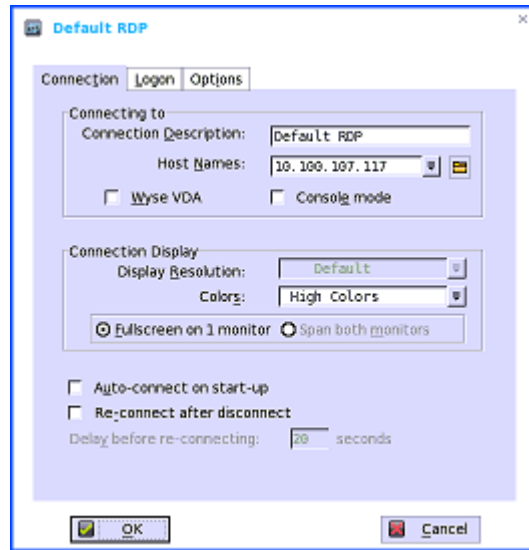
RDP 接続の設定

仮想デスクトップ環境では、RDP 接続は仮想デスクトップブローカによって割り当てられ、RDP 接続を手動で作成する必要がありません。仮想デスクトップブローカ仮想マシンは、仮想マシンの [Connection Settings] ダイアログ ボックスを開いて、リセット ボタン (ダイアログ ボックスの右上に表示) をクリックすることで、ゼロクライアントからリセットできます。

[Connection] タブ

図 3-15 に、[Connection] タブを示します。

図 3-15 [Default RDP] : [Connection]



次のガイドラインに従って、[Connection] タブを設定します。

- [Connection Description] : 接続リストに表示されるわかりやすい名前を入力します (最大 38 文字)。
- [Host Names] : リストを使用して、ゼロクライアントの接続先となるサーバの有効な DNS サーバ名または IP アドレスを選択します (ボックスの横にある [Browse] を使用して選択することもできます)。たとえば、ローカル ネットワーク上の WTS サーバのリストから選択できます。



ヒント サーバ名は、DNS と WINS の 2 つのメカニズムのいずれかを使用して解決できます。DNS はネットワーク制御パネルのデフォルト ドメイン名を使用して FQDN を構成しようとしませんが、デフォルトを使用しない名前解決も試行します。

- [VDA] : 選択すると、ゼロクライアントは Virtual Desktop Accelerator (VDA) ソフトウェアを使用して、サーバとクライアント間で大きなラウンドトリップ遅延のあるリモート デスクトップセッションで、「高速な」ユーザ エクスペリエンスを提供します。
- [Console mode] : [Windows Console] モードを使用して RDP 接続を設定する場合に選択します。
- [Display Resolution] この接続の表示解像度を選択します。
 - Default
 - 640 × 480

- 800 × 600
 - 1024 × 768
 - 1152 × 864
 - 1280 × 720
 - 1280 × 768
 - 1280 × 1024
 - 1360 × 768
 - 1368 × 768
 - 1440 × 900
 - 1600 × 900
 - 1600 × 1200
 - 1680 × 1050
 - 1920 × 1080
 - 1920 × 1200
- [Colors] : RDP セッションのカラー深度を選択します。[High Colors] (16 ビット) または [True Colors] (32 ビット) が選択されたときに、RDP サーバがこのカラー深度をサポートしていない場合、ゼロ クライアントはカラー深度をより低い値に再ネゴシエーションします (たとえば、256 色 (8 ビット))。ハードウェアがサポートしている場合、最大は 32 ビットです。



ヒント 一部のゼロ クライアントバージョンでは、RDP 接続に 256 色 (8 ビット) だけを選択できません。また、古いバージョンのサーバ ソフトウェアの場合 (たとえば、RDP 4.0)、サーバは 8 ビット カラーだけをサポートしています。これは前もって検出できませんが、接続が確立されると 8 ビット カラーが使用されます。

- [Window mode] および [Full screen mode] : アプリケーションの初期表示をウィンドウ画面にするか、全画面にするかを選択します。Ctrl-Alt を押した状態で上矢印を使用すると、表示モードを切り替えることができます。
- [Auto-connect on start-up] : これを選択すると、起動時にセッションを自動接続します。
- [Re-connect after disconnect] : これを選択すると、オペレータ以外によって開始された切断の後に、ゼロ クライアントはセッションに自動的に再接続します。選択した場合、待機間隔は [Delay before re-connecting] ボックスに設定された値 (1 ~ 3600 までの秒数を入力) か、ユーザ プロファイルで yes にした場合の値 (20 秒) または指定した秒数になります。この接続の INI ファイル記述がないか、スタンドアロン ユーザの場合、あるいは単に省略された場合のデフォルトは 20 秒です。

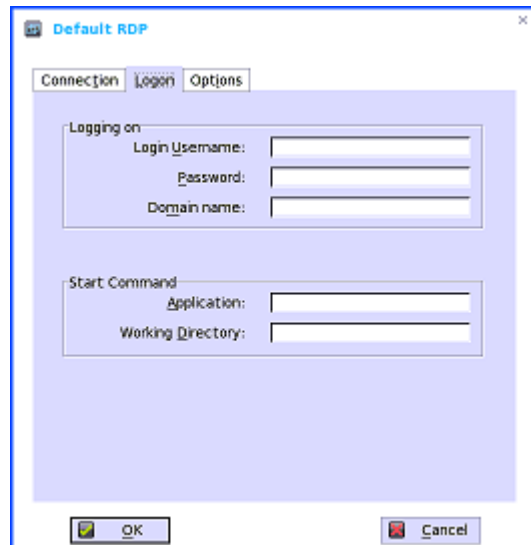


ヒント [Connection Settings (RDP)] ダイアログ ボックスの [Connection] タブでオプションをリセットできます。これを行うには、[Reset VM] コマンド ボタンをクリックします。このコマンド ボタンは、ダイアログ ボックスの右上にあります。VDM ブローカ接続の場合にのみ表示されます。

[Logon] タブ

図 3-16 に、[Logon] タブを示します。

図 3-16 [Default RDP] : [Logon]



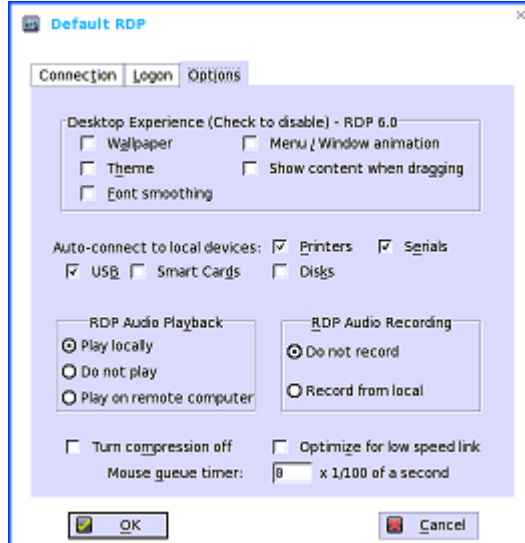
次のガイドラインに従って、[Logon] タブを設定します。

- [Logging on area] : ログイン用のユーザ名、パスワード、およびドメイン名を入力します。これらのボックスにデータが入力されていない場合は、接続時に RDP サーバのログイン画面に情報を手動で入力できます。次のガイドラインに従ってください。
 - [Login Username] : 最大 31 文字です。
 - [Password] : 最大 19 文字です。
 - [Domain Name] : 最大 31 文字です。
- [Application] (最大 127 文字) および [Working Directory] (最大 63 文字) : 接続されるとサーバで自動的に開始するように関連付けられた作業ディレクトリを含む、初期化用の文字列と引数を入力します。

[Options] タブ

図 3-17 に、[Options] タブを示します。

図 3-17 [Default RDP] : [Options]



次のガイドラインに従って、[Options] タブを設定します。

- [Wallpaper] : 選択すると、デスクトップの壁紙が無効になります。
- [Menu / Window animation] : 選択すると、メニューまたはウィンドウのアニメーションが無効になります。
- [Theme] : 選択すると、デスクトップのテーマが無効になります。
- [Show content when dragging] : デフォルトでは、ウィンドウのタイトルバーを「つかんで」動かすと、そのウィンドウの内容も同様に動きます。これを選択すると、この内容表示機能が無効になり、ウィンドウをドラッグしたときに、ドロップするまでウィンドウの外枠だけが動きます。このオプションは処理能力が少なく済むため、便利な場合があります。
- [Font smoothing] : ベクトル文字をビットマップに変換し、表示を改善します。
- [Auto-connect to local devices] : ゼロクライアントを自動的にデバイスに接続するためのオプション ([Printers]、[Serials]、[USB]、[Smart Cards]、[Sound]、および [Disks]) を選択します ([USB] : ゼロクライアントにローカル接続された USB デバイスを Microsoft Windows のターミナルサーバにリダイレクトします。ユーザがターミナルサーバに接続すると、ゼロクライアントにローカル接続された USB デバイスにアクセス可能になります)。
- [RDP Audio Playback and RDP Audio Recording] : 使用するオーディオオプションを選択します。



(注) RDP Audio のオプションにより、Cisco VXC クライアントはオーディオ情報を転送できます。ただしその場合も、中央サーバからの制限は適用されます。ユーザは、双方向オーディオが Cisco VXC アーキテクチャでサポートされているかどうかを、システム管理者に確認する必要があります。

- [Turn compression off] : 選択すると、圧縮がオフになります (高速接続向け)。
- [Optimize for low speed link] : 選択すると、低速接続用に最適化されます。たとえば、オーディオ品質を下げたり、プロトコルで指定したキャッシュサイズを減らしたりします。WAN リンクにスパンニングしている接続や、ダイヤルアップ回線を使用している接続向けです。

[Mouse queue timer] : ICA または RDP セッションでのマウス イベントのデフォルト キュー タイマーを指定します (1/100 秒単位)。これを使用して、ネットワークの帯域幅を調整できます

